

ベルリン稲門会



Berlin

幹事からのメッセージ

大学院生だった時にベルリンに留学したのをきっかけに、今日までベルリン在住です。長年住んでいますが、早稲田大学の関係者にお会いすることは幾度となくありました。

お2人の歴代総長、現副総長をはじめ、さまざまな学会や会議でベルリンを訪問される早稲田の研究者の方々にお目にかかる機会もあり、貴重な体験をさせていただいています。ベルリンの中央駅を歩いていると突然、「あれ？ 君、早稲田の卒業生だね？」と話しかけられたこともありました。見ると、大学1年生の時に必修科目でお世話になった先生が目の前に立っていらっやっやだったので。卒業して何年もたつのに、覚えていてくださったことに感激しました。

早稲田大学の知名度の高さは海外でも通じています。ドイツでは何年も前から、村上春樹さんの作品がベストセラーになっているのですが、あるパーティーの席で何かのきっかけで自分が早稲田であること

を話したら、「ハルキムラカミと同じ大学を卒業したの！ ジャア、『ノルウェイの森』のようなキャンパスライフを送ったの？」などというレスポンスが来て、びっくらさせられたことがありました。

ベルリンでは、2013年より早稲田大学が主催者となって留学フェアが実施されています。お世話になった母校のために、微力ながら何かの形でご協力させていただきたいと思っています。

塩田智子(1995年商学、99年商研修)



ブランデンブルク門

ベルリン稲門会の人びと

People



安倍首相が訪独した際のメルケル首相との会見

在校生へのメッセージ

先日、ベルリンを訪問したあるジャーナリストの方と、最近の日本について話し合う機会がありました。私が日本を離れたのはもう十数年前以上になりますが、その方が言うには「そのころに比べて、今の日本人は自信を失くしていると思う」とのことでした。

かつてはアジアのなかで唯一、欧米諸国と互角の存在であったわが国は、今では経済力では中国に抜かれ、韓国にも追いつかれてしまった。外交的には東アジアでは緊迫感がますます高まってきている。若者はあえて海外には出ようとせず日本にとど

まる傾向が強く、自信を失いつつある——とのことでした。

いろいろな見方があるので、この推測が正しいとは必ずしも限りません。でも、もしそのように感じている学生がいるとしたら、「自信をもってね」と声を大にして伝

えてあげたいと思います。

海外に出てみると実感することですが、日本を尊敬し、日本を好きな外国人の方はとっても多いのです。日本文化の奥深さや日本語の美しさに興味をもっている欧米人はたくさんいらっやっやいますし、最近の傾向でいうと日本のポップカルチャーはとても人気が高いのですから。

とはいえ、大学時代は何かと迷いや戸惑いを感じる時期で、ともすれば自信を失いがちになる時期であるのかもしれない。そんな時には、おおいに失望し、おおいに悩んでみるのもいいと思います。また海外に出てみるのも悪くないと思います。

旅行にせよ、留学にせよ、ワーホリにせよ、海外に出ると、さまざまな場面でカルチャーショックを受けます。私自身、楽しいこともいっぱい経験しましたが、それと同じくらい深く落ち込むことも多くありました。大変だけど、だからこそ価値のあるもので、今になって思うと、そこから得られたものは、かけがえのないものだと感じています。

塩田智子(1995年商学、99年商研修)

フラットな集合体なので、会長はいません。会員数は10名程度。2013年1月に、現在のメンバーで登録し、活動を始めました。

2014年1月末に、早稲田大学の副総長や関係者が訪問された時には、懇親会を開催しています。今後も、ベルリンで留学フェアが開催される時期に懇親会を行いたいと思っています。

ベルリン稲門会について

About



ベルリンの魅力

Charm



ベルリンの街路。道路にはめ込みである石畳に沿って、かつては壁が立っていた。

世界を揺るがしたベルリンの壁の崩壊から、今年で25年を迎えます。かつて冷戦の最前線だったこの街は、劇的な再生を遂げてきました。ドイツの首都として政治機能が集まり、なかでも音楽・舞台芸術・美術など文化面の充実ぶりは、ヨーロッパでも屈指の水準に

あります。人口350万人のドイツ最大の都市であるにもかかわらず、人口密度は、ほどよい感じといえるでしょうか。郊外には森や湖が広がり、中心部でさえも緑があふれ、時に都会にいることを忘れてしまうほどです。難を言えば、大国の首都にしては空のアクセスが、やや不便なこと(日本からの直行便はありません)。もともと商業や金融の街ではないため、日本企業も少ないですが、

ベルリンでは都会の刺激と田舎のゆるやかさが不思議な形で混ざり合っており、ここに住み始めた人は、それぞれの好みに応じて楽しみを見出していくことができます。もちろん数日の観光で訪れても、大変魅力的な都市です。

中村真人(2000年文学)

会員からのメッセージ

●昨年から在ドイツ日本国大使館に勤務し、1年が過ぎようとしております。拙いドイツ語(のようなもの)を駆使し、連邦政府職員をはじめ、さまざまな方々と一緒に仕事するなかで、日々これ勉強と感じております。時には手痛い失敗もありますが、これも異文化交流の醍醐味と前向きに受け留められるのは、稲門会の仲間たちとの交流があってこそと実感しております。 安藤良将(2003年法学)



日本大使館と桜

●大学卒業後、「ほんの1、2年」の留学のつもりでベルリンにやって来て、はや13年。いつの間にか人生の3分の1近くをこの街で過ごし、第二の故郷ともいえる存在になりました。海外に根を下ろ

して住んでいるからこそ、早稲田ネットワークのありがたさを感じる機会が少なからずあります。これから息長くベルリン稲門会の集いが続くことを願って。 中村真人(2000年文学)